

青森では山菜採りのシーズンである。毎年、山菜採る。今年も隣の秋田県でクマに襲われて死亡する事件



弘前市尾上山出土クマ形土製品（風韻堂コレクション）・青森県立郷土館所蔵

もあった。また、クマによる農作物への被害も毎年ある。様々な原因があると思われるが、クマと人との住み分けが年々難しくなっているようだ。

東通村尻屋崎周辺から約2万年前、旧石器時代のクマの骨が出土している。実はヒグマとツキノワグマは骨の形質では分けられず、現生する個体の骨の大きさ

ノワグマの骨が出土している。前期では三内丸山遺跡からも骨が出土している。ツキノワグマの骨の出土数は、シカ・イノシシなどに比べて少ない。中期末葉のむつ市最花貝塚から出土したツキノワグマの頭骨には、人によって打ち割られた可能性のある傷があり、「儀礼」の可能性が指摘されている。

口には牙（犬歯）が出ていて、実は威嚇している状況を表現している。本州最大のほ乳類であるツキノワグマを、縄文人は単に狩猟の対象だけではなく、森の王者として畏敬の念をもっていたかもしれない。

## 縄文時代のクマ

伊藤 由美子

（県民生活文化課  
県史編さんグループ 主幹）

と生息域（本州か北海道か）から同定している。当時は寒冷なため津軽海峡を動物が渡れた可能性があることや尻屋崎周辺から出土したクマの骨の大きさから、ヒグマと同定されている。

現在、青森県を含む本州にはツキノワグマが生息している。縄文時代早期の八戸市長七谷地貝塚からツキノワグマの骨が出土している。前期では三内丸山遺跡からも骨が出土している。ツキノワグマの骨の出土数は、シカ・イノシシなどに比べて少ない。中期末葉のむつ市最花貝塚から出土したツキノワグマの頭骨には、人によって打ち割られた可能性のある傷があり、「儀礼」の可能性が指摘されている。

また縄文時代後期以降、クマをかたどった土製品が遺跡から出土している。縄文晩期の弘前市尾上山から出土したクマ形土製品（写真）は、耳や尾などが欠けており、一見クマには見えない。しかし、胸にはツキノワグマの特徴である月輪が表現されているため、ツキノワグマであることがわかった。そして当時の青森にはツキノワグマが生息していた証にもなっている。

表情をみると、なんとも気弱そうな感じであるが、縄文人を含む狩猟採集民は必要な分だけ食料を確保するため、農耕民より比較的時間に余裕があったという説がある。必要以上の採集を行わないため、ツキノワグマやシカなどが必要な植物性食料も集落周辺などには十分にあり、共存できていたことが考えられよう。